

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



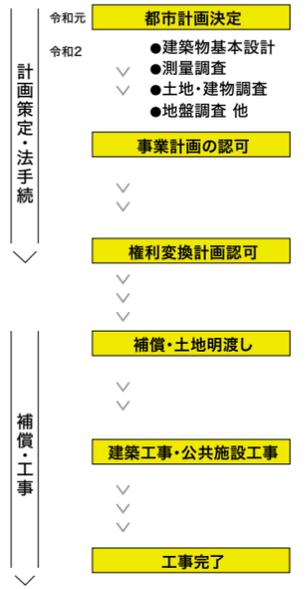
シティライフNEWS
で検索



完成イメージ



【今後のスケジュール】



※計画案は現時点のものであり、決定事項ではありません。今後、この案をもとに検討を進めていく中で変更となる場合があります。

MONTHLY OF TOPICS

千里丘駅西地区の再開発が本格始動 2028年完成を目指す

摂津市は今年2月、「千里丘駅西地区市街地再開発事業」について決定した。約60年前の都市計画決定に端を発した事業がついに本格始動。新たな市の象徴として期待される同地区は、2028年頃の完成を目指す。

JR千里丘駅の駅前には、南北に走る京都線によって東地区と西地区に分かれ、先に再開発が行われた東地区は、ロータリーや住宅と商業が複合する施設「フォルテ摂津」などが整備されている。一方の西地区は、府道正雀停車場線や千里丘中央線といった幹線道路は整備されたが、駅前には古い木造建築が密集している。道路が狭いた

め自動車の送迎による渋滞も多く、歩行者の安全性についても問題視されている。土地活用の面でも、近年は駐車場や空き地が増えており、駅前中心部という立地を生かし切れていない。また、最近は大阪健康医療都市のまちづくりなど周辺地域のマンション開発が進んだこともあって、駅の乗降客は2013(平成25)年以降、増加傾向にあり、都市機能の改善のため再開発の必要性が高まっていた。

まちづくりの検討は、1988(昭和63)年から約30年の間は地権者らによる準備組合によって進められてきたが、経済状況の悪化などの理由によって活動の規模が縮

小し、事業化に至らないまま解散した。2018(平成30)年、摂津市は市施行の再開発事業方針を決定。同年には計画案の見直しを行い、昨年は都市計画原案の説明会を実施。今年2月に都市計画を決定した。

開発地区は府道正雀停車場線と大阪高槻京都線に囲まれた場所で、市が施行するのは約1.5ヘクタール。都市計画の案では、約0.3ヘクタールのロータリーや道路を整備し、約0.6ヘクタールの「I街区」、約0.1ヘクタールの「II街区」に分け、I街区には32階建て280戸の超高層マンション、自由通路によって駅と直結した3階建ての

商業施設、駐車場を整備。II街区には5階建ての商業施設を予定している。

今年3月には事業協力者を募集し、7月16日、最優秀提案者に大和ハウス工業を代表とする共同企業体が選定された。今後は建築物の基本設計や測量調査など計画の策定や法手続きを進めていく。市の担当者は「この再開発は摂津市として新たな拠点づくりであり、核となる重要な事業です。商業施設の内容をはじめ詳細についてはまだ計画の段階で、これから検討していくことになります。今後にご期待ください」と話している。

※計画案の内容は公表時点のもの。変更の可能性あり(イメージなども含む)。



各市の防災ハンドブック・ハザードマップ

大雨や台風時の浸水被害区域がわかる ハザードマップや防災ブックの確認を

警報をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害が発生するおそれ著しく高まっている場合には「特別警報」が発表される。7月に起こった「大分県内豪雨被災」ではこの「特別警報」が出され、最大級の警戒が呼びかけられた。このようにその地域にとって数十年に一度の大雨になると、大きな災害が起こってしまう危険性がある。

またこれからの8月、9月は台風シーズン。北摂でも2018年9月4日に上陸した台風21号による暴風で屋根が飛ばされたり、停電が起こったことは記憶に新しい。北摂各市では、このような水害、災害時に役立つ

つ、ハザードマップや防災ブックを発行し、市民に注意を呼びかけている。

ハザードマップには「洪水浸水想定区域図」や「土砂災害警戒区域図」が記されているので、自分が住むエリアをチェックしておきたい。また水害の氾濫には河川そのものの水位が上昇して起こる「外水氾濫」と市街地に降った雨水の量が都市の処理能力を超えることで発生する「内水氾濫」がある。内水氾濫を防ぐためには、普段から下水道の側溝や雨水ますの清掃を行っておきたい。詳しくは各市の防災ブックやハザードマップを確認しておこう。

【各市の注意箇所や対策】 ※詳しくは各市のハザードマップ、ホームページで確認を。

吹田

吹田市は特に南部が地形的に低く、神崎川や安威川などの大きな川が位置していることから、長時間大雨が降った場合、河川はん濫による浸水が広範囲で予測されており、一部地域では3m以上の浸水が想定される。また南部地域は丘陵地からの雨水が集まりやすい地形ながら、雨水を直接川に排水することはできず、ポンプで排水しなければならないため、浸水被害が多発。そのため、平成14年度(2002年度)に「雨水レベルアップ整備計画」を策定し、雨水管の増強などの浸水対策を進めている。現在、中の島地区において、令和5年度完成を目指して計画に基づく雨水管整備工事を行っている。また、建物への浸水被害軽減を図るため、止水板の設置費用についての助成制度も設けている。詳しくは、吹田市総務部危機管理室(TEL.06-6384-1753)、「雨水レベルアップ整備計画」については、吹田市下水道部経営室(TEL.06-6384-2080)まで。

豊中

豊中市の南部地域には複数の河川が流れているため、特に洪水による浸水被害に、また、市の北部地域には土砂災害(特別)警戒区域が点在しているため、げけ崩れによる被害に注意する必要がある。日頃より、「浸水ハザードマップ」、「土砂災害ハザードマップ」で自宅のあるエリアの浸水想定や避難場所等を確認するとともに、状況に合わせた避難方法について家

族で検討しておきたい。「浸水ハザードマップ」、「土砂災害ハザードマップ」は豊中市役所、新千里出張所、庄内出張所にて配布、市のホームページにも掲載。また、「とよなか防災アドバイザー派遣制度」による講演会や出前講座において、気象情報・避難情報の取得方法等、水害に備える内容の普及啓発を実施している。詳しくは、豊中市危機管理課(TEL.06-6858-2683)まで。

箕面

箕面市は、市の面積の約3分の2が山林で占めており、山袖の市街地の一部では、土砂災害の危険エリアが存在。また、一級河川である余野川、千里川等があり、浸水などによる被害を想定している地域もある。まずは、市の防災マップで住んでいる地域がハザードエリアか、ハザードエリア外かを確認するとともに、併せて「避難所に行く方が安全か?」、「家にいる方が安全か?」の確認を。台風や豪雨の時、ハザードエリアの屋外は、最も危険な場所となり、ハザードエリア内に自宅がある場合、家が安全なら暴風雨のなか外に出る方がむしろ危険な場合も。家が安全な場合は、外出せず、2階以上の山、崖、川から離れた部屋に避難を。また、家の構造と土砂災害のリスクの程度によってとるべき行動が変わるため、防災マップで必ず確認を。防災マップは、市ホームページで確認でき、箕面市役所本館1階窓口課、豊川・止々呂美支所でも配布している。詳しくは、市民安全政策室(TEL.072-724-6750)まで。

非常時主な持ち出し品リスト

- 飲料水(500ml程度 家族各1本ずつ)
- トイレ用紙、ティッシュ等
- 懐中電灯・予備電池
- ビニール袋、ポリ袋、生理用品
- 保険証・メモカード
- 充電器、モバイルバッテリー
- 現金(小銭)・通帳・印鑑
- マスク、消毒ジェル・スプレー等
- 防寒具、雨具、携帯カイロ
- 携行食(ビスケット、チョコレート等)
- 常備薬、お薬手帳
- タオル、下着、靴下